

商業

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

タブレット端末を用いた『主体的に学習に取り組む態度』の評価の実践

(2) 研究のねらい

『主体的に学習に取り組む態度』の学習評価について、タブレット端末を用いて学習を自己調整させていく実践を通して、より良い評価の手立てを検討する。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：簿記

イ 単元名：本支店会計（本支店間の取引・合併財務諸表）

ウ 単元の目標：

- ・本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ・本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- ・本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組む。

エ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けています。	本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

オ 単元を貫く問い合わせ：事業拡大のため、社長が支店を一挙に2店舗作ろうとしています。経理担当者のあなたは社長より会計システムについてのアドバイスを求められました。
「根拠」をもとにどのようなアドバイスをしますか？

カ 単元の指導と評価の計画

時	主な学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導のポイント
1	本支店間の取引の記帳：本支店間の取引の記帳方法について学習する。	○			・ [知] 【評価のポイント】本支店間の取引の記帳方法について理解しているかを評価する。（定期試験）
2	支店間取引の記帳：支店間取引の記帳方法について学習する。	○			・ [知] 【評価のポイント】支店間の取引の記帳方法について理解しているかを評価する。（定期試験）
3	本支店合併財務諸表の作成①：本支店合併財務諸表の作成方法について学習する。		○		・ [思] 【評価のポイント】本支店合併財務諸表の作成方法について合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだしているかを評価する。（定期試験）

4 研究授業	本支店合併財務諸表の作成②：作成した財務諸表における課題を見いだし、根拠に基づき自らの考えを表現する。	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・[思] 【指導上のポイント】本支店間でのやり取りを通した協働的な学びから、単元を貫く問い合わせに取り組むための気付きを与える。 ・[思] 【評価のポイント】本支店合併財務諸表の作成方法について、科学的な根拠に基づいて課題に対応しているかを評価する。 (Google フォーム、定期試験) ・[態] 【指導上のポイント】「他の生徒の意見」や、「単元を貫く問い合わせへの取り組み方」などを記入させ、生徒が単元の学びを自覚的に捉えることができるようする。 ・[態] 【評価のポイント】単元を貫く問い合わせの学習前後での考え方の変化から単元の学びにどのように取り組んだのかを評価するとともに、他の生徒の意見を取り入れ、自身の学びを調整しながら進めようとしているかを評価する。 (Google フォーム、ワークシート)
-----------	---	---	---	--

キ 「Google フォームによる振り返りシート」の内容（参考資料 1）

- 1 単元を貫く問い合わせ（学習前） ※前述のオ参考
- 2-① 本支店間の取引の記帳について本店の仕訳について理解できたものにチェックをつけよう。
- 2-② 本支店間の取引の記帳について支店の仕訳について理解できたものにチェックをつけよう。
- 2-③ 学びの振り返り 理解度に応じて復習しよう。
- 3-① 支店間の取引の記帳について、理解できた仕訳にチェックをつけよう。（例：大宮支店は、横浜支店に対して現金￥350,000を送付した。）
- 3-② 学びの振り返り 理解度に応じて復習しよう。
- 4-① 本支店合併貸借対照表について、理解度にチェックをつけよう。
- 4-② 本支店合併損益計算書について、理解度にチェックをつけよう。
- 4-③ 学びの振り返り 理解度に応じて復習しよう。
- 5 単元を貫く問い合わせ（学習後） ※前述のオ参考
- 6 アドバイスを考えていく過程で、どのように解決しようとしましたか？単元を貫く問い合わせについてのあなたの自身の考えが学習前後でどのように変化したかを振り返って、自分の学びについて記述しましょう。

2-①本支店間の取引の記帳について、**本店の仕訳**について理解できたものにチェックをつけよう。

本店から支店へ現金を送る仕訳。（例：本店は支店に現金￥50,000を送付し、支店はこれを受け取った。）

本店から支店へ商品を送る仕訳。（例：本店は支店に商品￥17,000(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。）

本店が支店の売掛金を回収した仕訳。（例：本店は支店の売掛金￥100,000を現金で回収し、支店はこの連絡を受けた。）

支店の当期純利益を計上する仕訳。（例：支店は決算において当期純利益￥100,000を計上し、本店はこの連絡を受けた。）

①授業の終わりに、その時間に理解できた項目について、チェックを入れる。

②チェックが入らなかつた項目に対して、後に理解ができるようになったら、チェックを入れる。

図 1 フォーム質問項目例（2-①）

ク 授業実践例 (4時間目／4時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 (5分)	<p>見通しを持つ 横一列が厚木商店となり、窓側2人がA支店、真ん中2人が本店、廊下側2人がB支店役に分かれ、疑似的な店舗間のやり取りによるパフォーマンス課題（他店の貸借対照表はわからない）を通した本時の活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時の目標：2店舗以上の支店がある場合の合併貸借対照表を作成する際に、各店舗において、どのような会計処理が必要かを考えよう。</p> </div>		
展開 (35分)	<p>予想を立てる ① ワークシートをもとに、合併貸借対照表作成するために、どのような会計処理が必要なのかを個人で考えて記入する。</p> <p>話し合う ② 同じ店舗のペアで意見交換し、新たな考えがあれば書き加える。 ③ 他店舗と意見交換し、必要な会計処理について確認する。新たな考えがあれば書き加える。</p> <p>合併財務諸表を作成する ④ スプレッドシートを使用して、自身の店舗の貸借対照表を作成する。 ⑤ 正しく貸借対照表が作成できたかを教員と確認する。 ⑥ スプレッドシートを使用して、合併貸借対照表を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見が出ない場合は、これまでどのような会計処理を行ってきたかを思い出させ、記入できるよう促す。 ・計算式等を用いていない場合は、スプレッドシートの特徴を生かし、計算式や関数を使用して作成するよう指示する。 ・各店舗の貸借対照表が完成したら、答え合わせをして間違っている場合はどこがどのように間違っているのか確認させてから、訂正させる。 ・合併貸借対照表の作成についてうまく進まない場合は、本店が中心となって各店舗と協力して作成するよう指示する。 	
まとめ (10分)	<p>学びを振り返る Google フォームの質問（「単元を貫く問い合わせについて学習後の考え方」と「単元の学びの振り返り」）に回答する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習前と学習後を比べて変化した部分などを具体的に記述できるよう促す。 	<p>【思考・判断・表現】 本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見</p>

		<p>いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。 「Google フォーム」</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 「ワークシート」、 「Google フォーム」</p>
--	--	--

研究実施校：神奈川県立厚木商業高等学校(全日制)
実施日：令和4年11月22日(火)
授業担当者：廣野 千夏 教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア テーマ設定の背景

今年度の入学生より、新学習指導要領における観点別学習状況の評価が始まったが、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価は、3観点の中でも特に難しく、多くの学校で悩みながら暗中模索している現状がある。また、同じく今年度の入学生より、個人所有による生徒1人1台端末環境下での学びが始まると、タブレット端末を用いた授業展開や様々な活用方法の研究が喫緊の課題となっている。

このような状況を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの過程におけるタブレット端末を用いた「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の研究を行い、より良い評価の手立ての検討に資することを目指してテーマを設定した。

イ 指導のポイント

(ア) 主体的・対話的で深い学びのプロセス

生徒はまず、単元の初めに単元を貫く問い合わせに対し、現時点での自分なりの考えを記述する。その後、単元の前半においては、知識・技術の習得を軸に進めていく。単元の後半においては、パフォーマンス課題に取り組ませ、知識・技術を活用させる場面を設け、思考・判断・表現の育成を図っていく。最後に、改めて単元を貫く問い合わせに対して自分なりの考えを記述させるとともに、単元の学習全体を振り返えらせる。「主体的に学習に取り組む態度」は最後の振り返りの場面を中心に、どのように学びに取り組んできたのかを見取っていく(図2)。

(イ) 具体的な手立て

より良く「主体的に学習に取り組む態度」を見取るために三つの手立て用いた。第一に単元を貫く問い合わせの設定、第二にパフォーマンス課題の設定、第三にGoogle フォームによる振り返りである。

a 単元を貫く問い合わせの設定

単元を貫く問い合わせは、単元を通して考え続け、単元で学んだ知識や考え方などを総動員して取り組

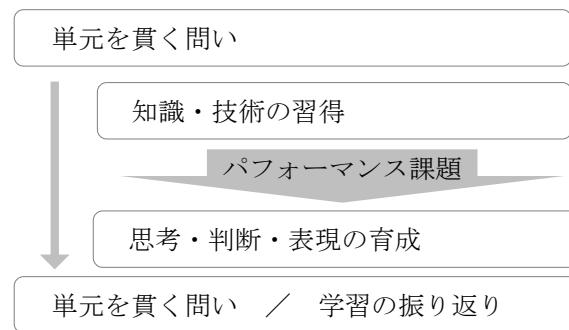


図2 学びのプロセス

む必要があり、問い合わせで単元の目標が達成できるようにしていくことが望ましい。また、本単元における思考・判断・表現の評価規準の中に、「…科学的な根拠に基づいて課題に対応している」とあるが、商業科でいう科学的な根拠とは、経済や市場の動向、ビジネスに関する理論やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例などとされており、本単元では実社会での会計記録の付け方に着目して考えていることとした。以上の点を踏まえ、本支店会計における単元を貫く問い合わせ「事業拡大のため、社長が支店を一举に2店舗作ろうとしています。経理担当者のあなたは社長より会計システムについてのアドバイスを求められました。「根拠」をもとにどのようなアドバイスをしますか?」と設定した。

この単元を貫く問い合わせを単元の最初と最後に回答させることを通して、自身の考えが学習前後でどのように変化したかを振り返らせ、自身の学びの進め方について把握させる。この振り返りが自己的学習を調整しようとする姿の表れとなるため、これを見取っていく。

b パフォーマンス課題の設定

パフォーマンス課題とは、現実社会に則して様々な知識や技術を応用・総合しつつ、何らかの実践を行うことを求める課題であるが、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価に当たってはパフォーマンス課題の設定が欠かせないと考える。なぜなら、「主体的に学習に取り組む態度」が、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかを評価する観点とされているからである。

また、商業科においては、検定試験に類似する問題によって学習評価が行われる傾向が少なからずある。しかし、新学習指導要領においては、キャリア形成を見据えて学ぶ意欲を高めたり、様々な知識・技術などを活用してビジネスに関する具体的な課題の解決策を考案したりする実践的・体験的な学習活動を行うことが求められている。この点からも、実務に則した課題を課すパフォーマンス課題を設定することには大きな意義がある。

以上のこととともに、①取引の提示方法を検定に準拠した問題文形式から、経理担当者からの報告という形式にし、②2人ずつのペアでそれぞれ本店、A支店、B支店を担当することとして、六人で一つの会社を形成し、タブレット端末を活用しつつ、協働して会計処理に取り組む課題を設定した（参考資料2及び、参考資料3）。

c Google フォームによる振り返り

昨年度の研究において、「主体的に学習に取り組む態度」を振り返りシートで見取っていく方法を実践した。今年度は、昨年度の振り返りシートを基にGoogle フォームで実践することとした（参考資料1）。紙ではなく、フォームで実施することによって、次のようなメリットが生じると考えられる。

- ①A4版などの紙の制約にとらわれない（YouTubeなどの動画教材へのリンクも掲載可）
- ②学習の自己調整がしやすくなる
 - （理解不足などを可視化させ、メタ認知につなげられる）
- ③個に応じた指導ができる
 - （わからなかった点について、指導する項目を作つておく）
- ④その時間のクラス全体の理解度を教員と生徒とが即時に確認できる
- ⑤用紙ならびに配付・回収の時間が節約される
- ⑥電子上に記録を残していく

その上で、「主体的に学習に取り組む態度」の涵養を意識して、フォームに次の内容を盛り込むこととした。

- ①目標を共有する
- ②見通し（学習内容のつながり）を持たせる
- ③単元全体の内容を反映した課題を与える（単元を貫く問い合わせ）
- ④チェックボックスによる毎時の振り返りにより、知識の理解度を把握させる
- ⑤理解できなかった項目について振り返りがしやすい仕組みを作る
- ⑥まとめの振り返りにより、自己の変容に気付かせる

特に現在、個別最適な学びが求められているが、フォームに盛り込む内容の④と⑤により、指導

の個別化の観点からも優れたツールとなると考えられる。なお、Google フォームによって振り返りを行う場合、Google フォームの設定変更を行い、いつ入っても、それぞれが前回の続きから始められるようにしておく必要がある。

ウ 検証

「主体的に学習に取り組む態度」についての学習評価は、ワークシート上での他者の意見を自分の新たな視点にしている様子や、Google フォームの質問項目⑥「アドバイスを考えていく過程で、どのように解決しようとしたか？単元を貫く問い合わせについてのあなたの考えが学習前後でどのように変化したかを振り返って、自分の学びについて記述しましょう。」から、自己の学習を調整しながら、主体的かつ協働的に取り組もうとしている様子が見取ることができればB評価以上とし、83%がこれに該当した。

実際の回答としては、「1人で取り組むのではなく、一緒に取り組む人と話し合って協力することが大切だと分かった。」「最初は、社長へのアドバイスとして人数を増やしたりすることが大切だと思ったけれど、効率良くできるように仕事を分けてお互いに伝え合うことが大切だと思った。」などのような記述が見られた。これらの回答からも分かるように、自己の学習を調整しながら取り組む様子が記述からも見取ることができた。

また、事後アンケートを実施し、昨年度の研究で行った振り返りシートに追加・変更した項目についても調査を行った。アンケートの内容としては、質問①「学びのつながり」を示したことによって、理解しやすくなりましたか（図3）、質問②チェックを付けたり、外したりすることによって、理解度について状況把握しやすくなりましたか（図4）、質問③「学びの振り返り（理解度に応じて復習しよう）」によって、理解できなかったことに対して、理解できる助けになりましたか（図5）、である。いずれの項目も「とても思う」「思う」の割合が、90%近い数字となった。特に、質問②のチェックを付けたり、外したりしながら自分の理解度をその都度把握していく振り返りの在り方は、「とても思う」の割合が40%を越え、質問①と質問③の割合よりも大きく伸びていた。このことから、今年度新たに追加した要素の中では、一番効果があったと考えられる。

「学びのつながり」を示したことによって、理解しやすくなりましたか。 29 件の回答

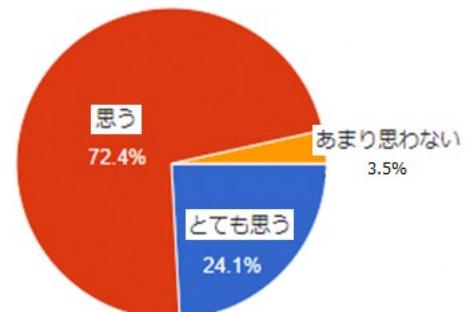


図3 事後アンケート①

チェックをつけたり、はずしたりすることによって、理解度について状況把握しやすかったか。 29 件の回答

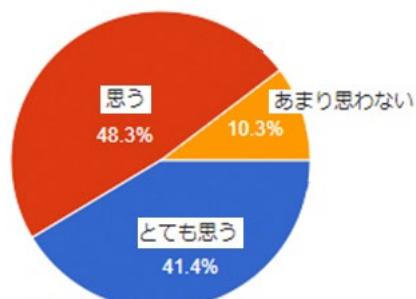


図4 事後アンケート②

「学びの振り返り」によって、理解できなかったことに対して、理解できる助けになったか。 29 件の回答

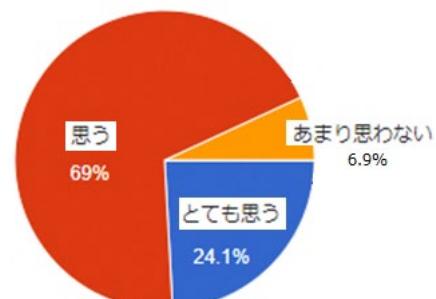


図5 事後アンケート③

エ 成果と課題

以上の検証の結果、今回の3つの手立てによって「主体的に学習に取り組む態度」の涵養に資することができ、Google フォームを活用した振り返りの有効性も確認できたと考える。生徒も、今回初めてタブレットを用いた学習活動を単元を通して行ったが、一時間ごとの振り返りの際に、自身の分かることろ分からぬところを的確に把握でき、苦手な箇所をそのままにしないように取り組む姿勢が普段より多く見られた。これは、ワークシートではなく電子データで学習の記録を保存していくことによって、いつでも確認することができ、それが生徒自身の学習の調整をしやすくなつたからだと考える。また、単元を貫く問い合わせを設定することで、一時間ごとに見ていた授業が、単元のまとまりを意識して単元全体を見通す視点を持てるようになり、深い学びにつながつたように感じる。本時を参観した職員の意見も、今回のようなGoogle フォームの使い方については、利用してみたいという意見が多かった。今回の単元のみならず、他の単元や科目、教科で活用できるのではないかと考える。

しかし、課題も三点浮き彫りになった。一つは「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価していくためには「知識・技術」が習得できていないと、評価していくことが難しくなる点である。パフォーマンス課題に取り組んでいくには、それまでの知識・技術が習得されていなければならぬ。今回、公開研究授業の日程が決まっていたこともあり、知識・技術の習得過程が十分ではない今まで当日を迎えることとなつた。また普段の授業では、検定試験を想定した問題に取り組んできていたため、より実務に近い課題の提示に生徒の戸惑いも多くあつた。これらのことことが要因となり、ほとんどの生徒がパフォーマンス課題に苦戦してしまい、想定以上に「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価が厳しいものとなつてしまつた。それぞれの観点は関連しているため、バランスよく育てていくには、普段から実務に則した課題の提示をしていく必要性を強く感じた。

次は、チェックボックスによる毎時の振り返りのさせ方に工夫が必要であるという点である。単元が進むごとに理解できた項目にチェックを付けていく生徒の姿は想定していた通りであったが、チェックを外す生徒の姿は見られなかつた。しかし、パフォーマンス課題で苦戦している様子から、本来ならばチェックがついている状態とは思えない生徒も少なくなつた。これは、「チェックの付け方が成績に影響する」かのような印象を与えていた可能性があるのではないかと、推進委員の中では意見がまとまつた。対策として、Google フォームでの振り返りを二つに分割し、成績に反映させない自己調整に役立てるためのGoogle フォーム（「c Google フォームによる振り返り」の内容の①②④⑤）と、成績に反映させるGoogle フォーム（同じく内容の①③⑥）と分割すること等が考えられる。その上で、自己調整のために気兼ねなく使用してもらえば、より効果が上がるのではないかと考える。

最後は、簿記が得意な生徒が必ずしもタブレットをうまく使いこなせるわけではなく、本来の学習の足かせになつたケースが見られたことである。そもそもタブレットの扱いに慣れない生徒がどのクラスにも一定数いる。当然のことではあるが、学校全体としてタブレットの基礎的な技能の習得を底上げしていき、タブレットの作業によって本来の学習が妨げられないように取り組んでいく必要がある。

オ 今後の展望

商業科の授業において、特に検定試験に深く結びつく科目では、依然として「検定試験を意識した授業」が中心となっており、検定試験の問題にだけ対応できる生徒の育成になりがちである。しかし、予測困難な時代を生きていくにあたつて、予測できる問題にだけ取り組ませるのではなく、未知の状況や現実の問題に数多くとりませていくことが求められる。

今回のパフォーマンス課題の実践は、普段とは違う授業の在り方によって、生徒に戸惑いを生じさせた点があつたが、生徒の感想には意欲的なものも数多く見られた。たとえば「今までより現実味があつて、簿記の考え方の基盤的なものが見えた気がする。帳簿の中だけの、現実とはかけ離れたものとしての考え方ではなくなつた。」「今までの問題は一問一答形式な問題が多かつたが、今回は周りと協力して実務を行う感じが新鮮で、とても面白かつた。より実践的になって、仕事についてのイメージがついた気がする。」「問題を簿記や帳簿の中だけのものと思わないで、実際に自分が経営したらどうしたら良いかと考える様になつた。」といった感想が出るなど、自己のキャリア形成に結び付けていた感想が予想以上に多かつた。このことからも、生徒の主体的な学びが実現できたのだと考える。

今後も「学びに向かう力」の涵養を念頭に置き、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の手立てについて検討を重ね、商業科の学習活動に役立てられる組立を実践していきたい。

3 参考資料

(1) Google フォームの全体像

参考資料 1

1年簿記 第7編 本支店会計

第29章 本支店間の取引
第30章 合併財務諸表

- 「思考・判断・表現」の評価のポイント
本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法について、根拠に基づいて表現できる。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイント
本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

出席番号
選択

学びのつながり
学びのつながりを意識しよう。

①本支店間の取引 → ②支店間の取引
↓
③④合併財務諸表の作成

1. 単元を貫く問い合わせ (学習前)
事業拡大のため、社長が支店を一挙に2店舗作ろうとしています。経理担当者のあなたは社長より会計システムについてのアドバイスを求められました。「根拠」をもとにどのようなアドバイスをしますか？
回答を入力

2-①本支店間の取引の記帳について、本店の仕訳について理解できたものにチェックをつける。
 本店から支店へ現金を送る仕訳。(例：本店は支店に現金￥50,000を送付し、支店はこれを受け取った。)
 本店から支店へ商品を送る仕訳。(例：本店は支店に商品￥17,000(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。)
 本店が支店の売掛金を回収した仕訳。(例：本店は支店の売掛金￥100,000を現金で回収し、支店はこの連絡を受けた。)
 支店の当期純利益を計上する仕訳。(例：支店は決算において当期純利益￥100,000を計上し、本店はこの連絡を受けた。)

2-②本支店間の取引の記帳について、支店の仕訳について理解できたものにチェックをつける。
 本店から支店へ現金を送る仕訳。(例：本店は支店に現金￥50,000を送付し、支店はこれを受け取った。)
 本店から支店へ商品を送る仕訳。(例：本店は支店に商品￥17,000(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。)
 本店が支店の売掛金を回収した仕訳。(例：本店は支店の売掛金￥100,000を現金で回収し、支店はこの連絡を受けた。)
 支店の当期純利益を計上した仕訳。(例：支店は決算において当期純利益￥100,000を計上し、本店はこの連絡を受けた。)

2-③学びの振り返り
2-①・②の理解度に応じて復習しましょう。
・本店から支店へ現金送付の仕訳 → 【教P319 例1】
・本店から支店へ商品送付の仕訳 → 【教P320 例2】
・本店が支店の売掛金を回収した仕訳 → 【教P321 例3】
・支店の当期純利益を計上する仕訳 → 【教P325 ミニテスト】

●
●
●

5. 単元を貫く問い合わせ (学習後)
事業拡大のため、社長が支店を一挙に2店舗作ろうとしています。経理担当者のあなたは社長より会計システムについてのアドバイスを求められました。「根拠」をもとにどのようなアドバイスをしますか？
回答を入力

6. アドバイスを考えていく過程で、どのように解決しようとしましたか？単元を貫く問い合わせのあなた自身の考えが学習の前後でどのように変化したかを振り返って、自分の学びについて記述しましょう。

このフォームにおいて、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」について評価することを示した。

単元の全体像（学びのつながり）を示すことによって、学びの見通しを示しつつ、どこの学びとどこの学びが関連しているのかを把握できるようにした。

単元を貫く問い合わせ (学習前)

「2 実践事例」の「キ 単元を通した『フォームによる振り返りシート』の内容」で示したように、メタ認知させる項目。（記録に残す評価の対象外）

2-③学びの振り返り

2-①・②の理解度に応じて復習しましょう。

- ・本店から支店へ現金送付の仕訳 → 【教P319 例1】
- ・本店から支店へ商品送付の仕訳 → 【教P320 例2】
- ・本店が支店の売掛金を回収した仕訳 → 【教P321 例3】
- ・支店の当期純利益を計上する仕訳 → 【教P325 ミニテスト】

個別最適な学び（指導の個別化）の一環として、理解できなかった項目に対して確認してほしい箇所を示すことによって、理解の定着を期待した。

単元を貫く問い合わせ (学習後) 【思考・判断・表現】

単元を貫く問い合わせの前後の変化から、自己変容への気づきを促し、単元の学びをどのように取り組んできたのかを記述させる。【主体的に学習に取り組む態度】

1年簿記 本支店会計まとめ課題

1年 組 番 名前 :

厚木商店は、本店の他にA支店、B支店を展開する小売業です。決算にあたり、合併財務諸表を作成していく段階で未達事項がいくつかあったことが判明しました。 () 店の経理担当であるあなたは、この報告を受けて、適切な会計処理を行ってください。なお厚木商店は、本店集中計算制度を採用しています。



本店 経理担当

- ① A支店に送った現金¥100,000が、A支店に未達でした。
- ② B支店の買掛金¥70,000を現金で支払っていたが、B支店に未達でした。
- ③ A支店に発送した商品(原価)¥200,000がA支店に未達でした。



A支店 経理担当

- ④ B支店から依頼を受け、B支店の買掛金¥250,000を現金で立替え払いしたが、この通知がB支店に未達でした。
- ⑤ B支店の得意先XYZ商店に対する売掛金¥50,000をXYZ商店振り出しの小切手で受け取っていたが、本店にもB支店にも未達でした。



B支店 経理担当

- ⑥ 本店から出張している従業員の旅費¥32,000を現金で立て替え払いしたが、この通知が本店に未達でした。
- ⑦ A支店に現金¥150,000を送付したことが本店にもA支店にも未達でした。

合併貸借対照表を作成するために、() 店として必要な会計処理を箇条書きで記入してみましょう。

【自分で考えたこと】

【新しい発見】

→ 必要な会計処理が確認できたら、

- (1) 各店舗の貸借対照表を作成しよう。
- (2) 本支店合併の貸借対照表を作成しよう。

※単元を貫く問い合わせ「経理担当者のあなたは【根拠】をもとにどのようなアドバイスをしますか?」について、学習後の考えをGoogle フォームに入力しましょう。

(3) 第4時の配付データ (エクセルファイルをGoogle ドライブ経由で配付)

参考資料3

本店のみに配付するデータ

未達事項処理前				未達事項処理後			
本店 貸借対照表				本店 貸借対照表			
資産	金額	負債・純資産	金額	資産	金額	負債・純資産	金額
現 金	639,000	支 払 手 形	1,107,000	現 金		支 払 手 形	
受 取 手 形	936,000	買 掛 金	1,218,000	受 取 手 形		買 掛 金	
売 掛 金	1,644,000	資 本 金	6,120,000	売 掛 金		資 本 金	
商 品	769,000	当 期 純 利 益	621,000	商 品		当 期 純 利 益	
建 物	2,286,000			建 物			
備 品	612,000			備 品			
A 支 店	1,217,000			A 支 店			
B 支 店	963,000			B 支 店			
	9,066,000		9,066,000				

本支店合併貸借対照表			
令和〇年12月31日			
資産	金額	負債および純資産	金額
現 金		支 払 手 形	
受 取 手 形		買 掛 金	
売 掛 金		資 本 金	
商 品		当 期 純 利 益	
建 物			
備 品			

A支店のみに配付するデータ

未達事項処理前				未達事項処理後			
A支店 貸借対照表				A支店 貸借対照表			
資産	金額	負債・純資産	金額	資産	金額	負債・純資産	金額
現 金	86,000	支 払 手 形	706,000	現 金		支 払 手 形	
受 取 手 形	703,000	買 掛 金	739,000	受 取 手 形		買 掛 金	
売 掛 金	598,000	本 店	967,000	売 掛 金		本 店	
商 品	343,000			商 品			
備 品	478,000			備 品			
当 期 純 損 失	204,000			当 期 純 損 失			
	2,412,000		2,412,000				

B支店のみに配付するデータ

未達事項処理前				未達事項処理後			
B支店 貸借対照表				B支店 貸借対照表			
資産	金額	負債・純資産	金額	資産	金額	負債・純資産	金額
現 金	504,000	支 払 手 形	687,000	現 金		支 払 手 形	
受 取 手 形	454,000	買 掛 金	1,300,000	受 取 手 形		買 掛 金	
売 掛 金	747,000	本 店	461,000	売 掛 金		本 店	
商 品	410,000			商 品			
備 品	227,000			備 品			
当 期 純 損 失	106,000			当 期 純 損 失			
	2,448,000		2,448,000				